

## この人に会いました

10月7日湯沢町公民館ホールのコンサートに出演をいただきました。笛田博昭さんに音楽の出会いや想いを伺いました。

笛田博昭さんは上熊野の笛田典昭さんの長男で、「第9回マダム・バタフライ世界コンクール」で1位を獲得するなど、日本のオペラ界でテノール歌手として今後の活躍が最も期待される若手ホープです。



上熊野 笛田博昭さん

音楽の道に本格的に進むきっかけは何だったのですか。

小さい時から歌うことはすごく好きで、高校の時に音楽の先生が貸してくれた三大テノール歌手のCDが衝撃的でそれに圧倒されて、僕もこんな声を出して歌って見たいなと思いい、夜になると寮の屋上で大きな声を出しては真似事をやっていました。(笑い)

先生に県コンクールの1ヶ

月前に出場を薦められ、駄目もとで受けたんです。本選に進める3人に残り、本選は1、2週間後だったと思います。緊張はありましたがとにかく気持ちよく歌おうと心がけました。学生の部で1位になり、ひよつとしたらこの世界でやっていけるような変な自信ができました。

高校時代、その先生に出会えていなかったら僕はこの道に進んでいなかったでしょうネ。

名古屋芸術大学進学では将来を決めていたのですか。

そうするしかないという気持ちにはありましたが、その道がどれだけ厳しく大変かというのをまだその時はわかっていませんでした。いい声を

出したい、人に感動させる歌を歌いたいという気持ちだけ。先生には、音楽の基本的なことから沢山のことを教えていただきました。また両親には本当に心配や世話をかけたと思います。

社会に出てからは。

結婚式やパーティー、ステージで歌ったりとか、いろいろな方々にお世話になりました。これは大変だと思うときもありましたが、僕は鈍感なせいか、きづかない、忘れてしまう。声の質とか褒められるとそういうふうにも思っちゃう、信じちゃう、良いのか悪いのか。(笑い) 苦にならないのは歌うことがすごく好きだからでしょう。ここまできたらもう一生の目標でしょうネ。

ふるさと湯沢に期待することは。

自然がいいですね、帰ってくるとホッとします。僕も含め町のために何が出来るとか、若い人たちの力が求められているように感じます。

また、文化や自然を活かすことも、これからの観光で大切な要素となってくるのでは

ないでしょうか、お客さんがそれを求めて来れるような環境づくりも大切だと思います。

これからの目標をお聞かせください。

僕の尊敬する歌手ジュゼッペ・ジャコモニーニを目標にしています。与えられたチャンスは勉強と信じ、自分のペースでやっていけるように心がけています。(結果的にそれがメトロポリタンや、スカラ座に繋がればと思っただけですが) 歌っているときは本当に楽しいし、これからも音楽の持っている本質的な素晴らしさや感動を伝えていきたいと思っています。

シャイな中にも思いにかけ強い意志、そこから沸いてくる勇気やエネルギーに圧倒させられたインタビューとなりました。

中国公演や各地の公演など、また12月2日には南魚沼市民会館大ホールでのコンサートと多忙の日々が続きませんが、今後の活躍を期待しています。

文責 南雲 正

南雲 和夫

## 編集後記

### 「絆(きずな)」

収穫の秋も、畑に残るものは少なくなってきました。農家の皆さん、今年のコシヒカリの出来ばえはいかがでしたでしょうか。

さて、今年は湯沢でも寒いといわれる三俣小学校で、七谷切の笛田さんのご指導をいただき、20年ぶりに米を作りました。品質のよいモチ米が収穫でき、文化祭で盛大なモチつき大会がおこなわれました。

また、各地に出没する猿の群れと、今までに湯沢にはいなかった猪が、町のあちこちで目撃されるようになりました。これらも全て地球温暖化が影響しているかもしれません。

私たちも、エネルギーの無駄づかいに気をつけ、多少なりともこの地球をきれいにし、この青い星ともっと長い付き合いをしたいものです。

編集 湯沢町議会  
広報副委員長 森下昌次

湯沢町議会  
広報常任委員会